

海外事務所だより

ニューヨーク事務所

# JETAAと東日本大震災の復興支援 — Let's become 「Tohoku Tomo」 —

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 松浦 佳祐 (宮城県派遣)

JETAAという組織をご存じでしょうか。JETAA (JETプログラム同窓会: JET Alumni Association) とは、JETプログラムを終了した卒業生有志を中心に構成されている親睦団体です。日本とJETプログラムに参加している諸国との相互理解を深めることを目的として活動しています。JETAAは、現在15の国と地域にわたり、52の支部があります。このうち、北米には、アメリカに19支部、カナダに7支部があり、各支部は日本の文化を紹介するなど、帰国後も日本に関連したさまざまな活動を行っています。

このJETAAの代表者が集まる会議として、1年に1度、アメリカ地域会議が開催されています。同会議には、全米19支部の代表者をはじめとしたJETAA関係者が多数参加し、さまざまな議題が話し合われます。

2014年の会議は、9月19日から21日までワシントン州シアトルで開催され、JETAAの全米組織設立に向けた取り組みが話し合われたほか、日本から招待された経済同友会の知日派・親日派拡大PT委員長である多田幸雄氏による基調講演などが行われました。さらに、今回の会議では、東日本大震災の復興支援プロジェクトである「Tohoku Tomo (東北友)」の紹介が行われました。JETプログラム参加者は、帰国後もJETAAメンバーとして東日本大震災からの復興に向けたボランティアなどのさまざまな活動を行っています。本稿では、東日本大震災時にJETAAが行った復興支援

に関する活動を紹介するとともに、地域会議で紹介された「Tohoku Tomo」について記載したいと思います。

## 東日本大震災時にJETAAが行った復興支援活動について

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、地震と津波による建物や産業へのダメージに加え、多くの尊い命が失われました。JETプログラム参加者であるモンゴメリー・ディクソンさん(岩手県陸前高田市ALT)、テイラー・アンダーソンさん(宮城県石巻市ALT)も震災により犠牲になりました。このように甚大な被害が発生した東日本大震災ですが、東北をはじめとした被災地の復興に向けて、JETAA支部はさまざまな活動を行ってきました。

### ○JETプログラム参加者の安否確認

震災当時、北米のJETAAはさまざまなルートから参加者の安否確認や日本の情報収集を行い、インターネットなどで情報発信を行いました。

### ○募金活動

世界各地のJETAAが募金活動を行い、2011年9月時点では、全世界合計で487,525ドルを集め、東北の復興支援のために寄付しました。また、アメリカのJETAA支部は、JETAA USA Relief Fundという独自の基金を設けて寄付金を集め、1年間で合計87,476ドルを集めました。この支援

金は、震災により犠牲になった現役JET 2人が在住していた陸前高田市と石巻市の教育関係機関を中心に、東北地方の復興活動に携わっている団体に寄付されました。この寄付をもとに、今年度、陸前高田市の子どもたちがアメリカを訪問しています。

なお、この募金活動の際、日米交流を行うさまざまな団体から、寄付金控除の対象となる全米組織設立の必要性が指摘されたことがきっかけとなり、近年は、全米組織設立に向けて活発な議論が行われています。

### ○東北地方でのボランティア

実際に東北地方を訪れてボランティア活動を行ったJETAAのメンバーもいます。モンゴメリー・ディクソンさんが配属されていた岩手県陸前高田市において、震災で発生したゴミの分別を行ったり、ピースボートという団体を通じて、石巻市を中心に救援や復旧活動を行ったJETAAメンバーもいます。

これらの活動のほか、自らの目で見た日本の状況や、復興状況をブログなどで情報発信し、風評被害の防止に努めるなど、多くのJETAAメンバーが東北地方の復興のためにさまざまな活動を行いました。

## 「Tohoku Tomo Documentary」の放映について

「Tohoku Tomo」とは、東北を愛する人の総称です。東北にゆかりがある必要はありません。本年9月のアメリカ地域会議においては、東日本大震災からの復興に向けて活動する人々のドキュメンタリーフィルムである「Tohoku Tomo Documentary」が紹介されました。これは、元宮城県JETで、JETAAシカゴ支部の代表であるウェスリー・ジュリアンさん（2008-2010年、宮城県ALT）が中心となり、東北の復興に向けて活動する人々「Tohoku Tomo」を取材して作成したものです。ジュリアンさんは、復興のために活動する団体やボランティアの状況を多くの方に見てもらい、震災の記憶が風化しないようにするた

め、同フィルムを制作しました。直近では、2014年10月16日にミネアポリスで放映したほか、2014年3月8日には、宮城県仙台市で放映するなど、さまざまな都市で精力的に活動しています。



「Tohoku Tomo」の紹介を行うウェスリー・ジュリアンさん（左）とダニエル・マーティンさん（右）

同フィルムは、多くの方へのインタビューを中心に制作されています。震災当初、物資がうまく分配されない中、果物が欲しいとの要望を被災者から受けて物資支援を行ったボランティアの方の活動や、自らスポーツイベントを企画し、スポーツを通じて子どもの笑顔を見ることができた方のエピソードなどが取り上げられています。また、音楽の分野からも、元JETプログラム参加者で、仙台市在住のミュージシャンでもあるMONKEY MAJIKのメイナード・プラントさん（1997-2000年、青森県ALT）から、復興に向けて行ったライブ「Send愛」などの活動が紹介されました。いずれの出演者からも、復興に向けて前向きに活動している姿が見て取れました。

同フィルム放映後には、クレアニューヨーク事務所の立田所長が、「Tohoku Tomo」のドキュメンタリーフィルム作成をはじめ、JETAAが



JETAAニューヨーク支部メンバーとクレアニューヨーク事務所メンバー

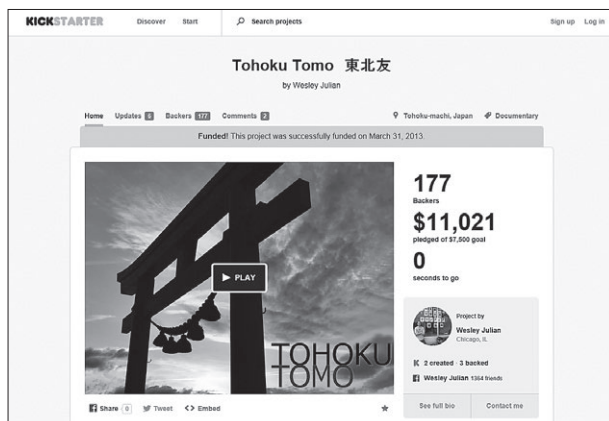
行った東日本大震災にかかるさまざまな活動に対して、感謝の気持ちを述べました。

なお、「Tohoku Tomo」の活動は、以下のホームページから見る事ができます。

Tohoku Tomo ホームページ

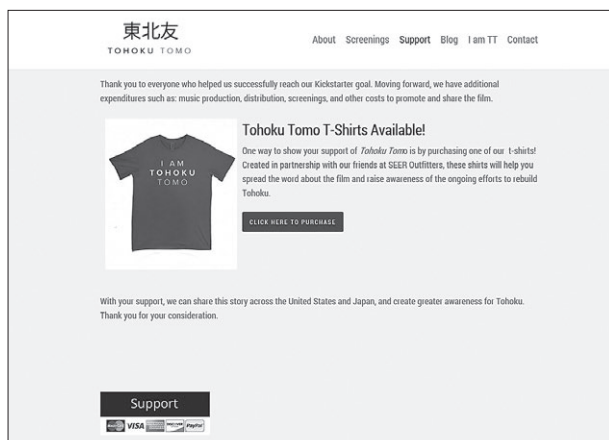
<http://tohokutomo.com/about/>

興味深いことに、フィルム作成や放映会にかかる資金は、2013年3月に「Kickstarter」（映画や音楽の作成などに対し、不特定多数の人からの資金調達方法を提供するウェブサイト）に「Tohoku Tomo」の項目を登録し、調達したとのことです。日本ではあまり見られないシステムであると同時に、素晴らしい作品に対して寄付を惜しまないアメリカならではの方法だと感じました。



「Kickstarter」の「Tohoku Tomo」ページ

また、ホームページでは「Tohoku Tomo」のTシャツ販売のほか、フィルム放映についてもリクエストすることができます。復興に向けて活動している方々の姿を見ることができる素晴らしいフィルムですので、是非ご覧になっていただき、



「Tohoku Tomo」のホームページ。Tシャツが購入可能

多くの方が「Tohoku Tomo」となり、東日本大震災の教訓が風化してしまわないことを期待したいと思います。

## JETAAと日本との絆について

東日本大震災時の活動をはじめ、これまで日本に対してさまざまな活動を行っているJETAAですが、上述の地域会議などでJETAAメンバーに会うと、JETプログラムが終了して帰国した後も、日本に対する興味や関心を失うことなく、日米交流活動を行っていると感じます。今回紹介した「Tohoku Tomo」の活動だけではなく、かつて在籍した日本の地方自治体や日本文化について嬉しそうに話す姿からは、彼ら、彼女らの中にある「日本人」の部分を感じることができます。

日本国内においては、総務省、外務省および文部科学省の三省が、2019年度までにALTを現在の約4,100人規模から6,400人以上にまで増員する方針を決定しました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、日本の国際化に向けて今後増加が見込まれるJETプログラム参加者ですが、今後日本に向けて出発する参加者たちが母国に戻った後も、今のJETAAメンバーのように日本との絆を感じるよう、当事務所としてもJETAAの活動を支援していきたいと思っています。